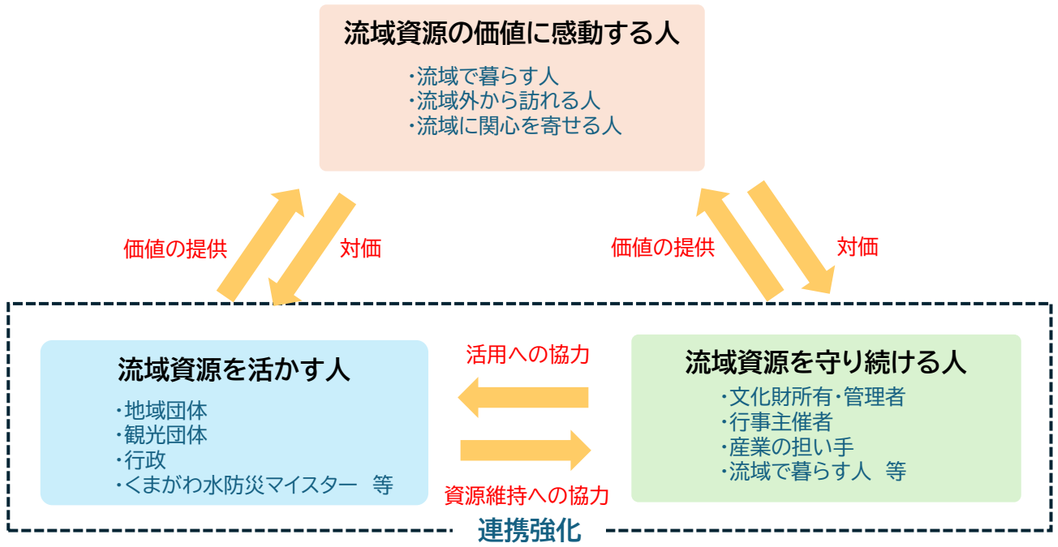
4 スケジュール(案)

	～R7	R8	R9	R10～
全体	・構想作成 ・行政勉強会	・推進計画作成 ・アクションプラン検討 ・体制の検討・立ち上げ	・アクションプラン作成(部会ごと)	・随時見直し
広報・教育	・PR手法の検討	・HP作成 ・デジタルマップ作成 ・SNS開設 ・ロゴマーク作成 ・看板デザイン作成	・PR活動 ・勉強会 →	
観光活性	・観光協会等との意見交換会	・モニターツアー実施 ・モデルルート作成 →		
流域資源保全	・流域資源リスト(暫定版)作成	・リスト作成 ・担い手の整理・意見交換	・各拠点の整理	・各拠点の設置

5 球磨川リバーミュージアムをつくり続けるために

- 球磨川リバーミュージアムに関係する主体は、①資源を守り続ける人、②資源を活かす人、③資源の価値に感動する人、の三者がいます。
- 流域全体で、この三者の好循環を生み出すとともに、球磨川リバーミュージアムを“つくり続ける”ため、流域全体の関係者の連携を図る推進体制の構築を検討します。



お問い合わせ先　**熊本県企画振興部球磨川流域復興局**

電話 ： 096-333-2609　／　メール ： kumakyokutsuki@pref.kumamoto.lg.jp

球磨川リバーミュージアム構想

令和8年3月

※本構想での「球磨川」は球磨川本川及び支川を総称して「球磨川」と表現しています。

1 背景と目的

- 球磨川流域(以下「流域」という。)では、川の「恵み」と「脅威」の両面と向き合いながら、人、文化、歴史、自然、観光等の分野で、魅力ある有形・無形の流域資源(地域資源)が生まれ、育まれてきました。
- 流域では令和2年7月豪雨により、多くの大切な流域資源が失われましたが、様々な主体が、復旧・復興に向け力強く歩んでいます。豪雨から5年経過した今、その歩みの加速化が求められています。
- **本構想では、球磨川リバーミュージアムを旗印に、球磨川を核としてヒト・モノ・コトの流域資源をつなぎ、「球磨川リバーミュージアム」としてブランド化し、価値と発信力を高めることで、交流人口の増加や防災力の強化を図り、流域内外の人々が“残り・集う“持続可能な地域の実現を目指します。**

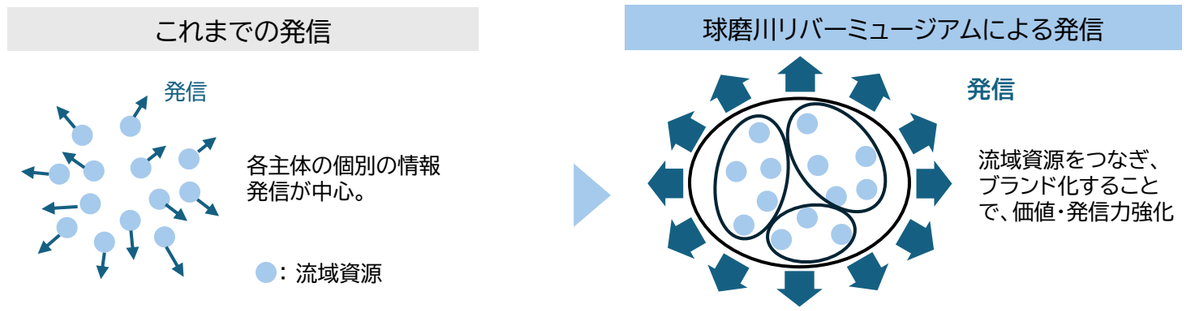
令和2年7月豪雨後の球磨川流域の課題

令和2年7月豪雨で生じた(加速化した)課題

- 交流人口減少
- 定住人口減少
- コミュニティの維持
- 地域経済の復興
- 豪雨災害の記憶の伝承
- 次の災害に備えた防災力向上

▶ これまで以上に流域資源の価値と発信力を高める必要が生じたため、流域の連携強化が重要。

球磨川リバーミュージアム構想の発信方法のイメージ



球磨川リバーミュージアム構想が目指す姿

対象	交流人口の増加	防災力の強化
流域内の人	身近な風景や文化、暮らしの価値を再認識し、流域資源や地域そのものへの誇りや愛着、郷土愛が育まれ、誰かに伝えることができる。	災害の教訓が日常の中で想起され、球磨川の脅威と向き合いながら安全・安心に暮らすための防災理解が持続的に保たれている。
流域外の人	流域を訪れた多くの人が、流域の魅力を体感し、「何度も訪れ、関わり続けたい場所」として心に残っている。	防災への関心と理解が高まり、自身の暮らす地域での防災行動を考えるきっかけが生まれている。

② 球磨川リバーミュージアムにおける流域資源の発信方法

- 本構想でいう「ミュージアム」は、流域全体を展示の場と捉え、自然、歴史、暮らし、災害や復興の記憶を対象とする、いわゆる「フィールドミュージアム」です。
- これまでの歴史の積み重ね、現在進行形の暮らしや復興の取組、変化の過程も含め、資源を個別に示すのではなく、流域の資源を「災害・防災」「人・文化・歴史」「自然（球磨川）」「観光」という４つのカテゴリーに分けて発信します。

災害・防災の流域資源

各地に残る災害遺構や、災害の経験を語り継ぐ伝承文化、防災に関する知恵や取組に基づく防災教育と文化は、球磨川と共に生きてきた流域特有の貴重な資源です。
災害からの復旧・復興の過程自体も、「球磨川と共に生きる」流域の将来にとって重要な資源となります。

（例）災害遺構（復旧したインフラ等）、流域治水プロジェクト事業等

天狗橋

緑の流域治水の取組み

人・文化・歴史の流域資源

これまでの歩みを表す歴史・史料や史跡・遺産、そしてその歴史を創ってきた人は流域の重要な資源です。
積み重ねられてきた歴史の営みが、今も流域での暮らしの中に息づいていることを感じられる伝統文化も、流域が誇る貴重な資源です。

（例）神社・仏閣、城跡、文化財、伝統芸能、球磨拳等

青蓮寺阿弥陀堂

相良三十三観音めぐり

自然（球磨川）の流域資源

球磨川の成り立ちと共に形成された地形・地質は、球磨川と共に生きてきた土地の特徴を最も表す資源です。
地形・地質によって生み出される絶景、自然・環境等も見る人・訪れる人を楽しませる資源となります。
美しい水が育む食文化も流域の貴重な資源です。

（例）球磨川をはじめとする河川、風景（朝霧、田園等）、球磨焼酎等

球磨川

球泉洞

観光の流域資源

球磨川での体験プログラムや、川と触れあえる拠点施設も、球磨川の恵みを直接伝える大事な資源です。
球磨川沿いに立ち並ぶ温泉は、流域観光のシンボル的な風景資源でもあります。
公共交通は資源を繋ぐ重要な資源です。

（例）アクティビティ、温泉、アニメ、サイクルツーリズム、くま川鉄道、JR肥薩線等

球磨川くだり

雨宮神社

③ 流域を周遊する仕組みづくり

- 本構想では、流域資源を有機的につないでPRし、カテゴリー間を行き来し、流域全体の資源を見て回りたくなるような発信方法を検討していきます。

【想定される取組み例】

- 流域資源へのサインの設置
- Webページ制作
- デジタルマップ制作
- モニターツアー実施等によるモデルルート検討
- くまがわ水防災マイスター(※)の育成

※流域資源をわかりやすく説明して楽しんでもらうリバーミュージアムのガイド役であり、地域の水防災のリーダーとして地域の防災力向上に資する人材

モデルルートの参考例

自然（球磨川）の流域資源

川辺川（五木村・相良村）

災害・防災の流域資源

川村駅（相良村）

リアルハザードマップ（流域各所）

観光の流域資源

温泉（流域各所）

人・文化・歴史の流域資源

八の字堰（八代市）

佐敷城跡（芦北町）

▶ 流域を回遊してもらう仕組みづくり（様々なルート➡を提案）